〔日刊〕　市内版

（昭和39年2月26日国鉄名局特別扱承認第110号・昭和21年6月1日第三種郵便物認可）

グリーン／バンカー整備
夜間照明完備
1箱80円(20ケ)
＊営業時間
午前8時—午後8時
毎週火曜日　休日
総合練習設備を誇る
緑ゴルフ練習場
名古屋市緑区鳴海町字黒石2—516
鳴子団地東／電話621—1266

きょうの紙面

2面　晴れやか、住民パワー勝つ
　　　漂流60時間、よくぞ生還
3面　駐車異変、有料なんてご免
4面　なぜ？高校生の自殺が急増
5面　初版本ブームに投資家便乗
7面　遊びの心を忘れた子供たち
8面　「わが道を語る」町春草さん
9面　中国ブームで「屈原」公演
10面　GBシリーズの焦点を斬る
12面　テレビ・ラジオ番組ガイド

名古屋タイムズ

第[illegible]号

© 名古屋タイムズ社 1972年

10月19日
昭和47年

発行所
名古屋タイムズ
名古屋市中区丸の内一丁目3番10号
電話（代表）231—1331
　　（販売）201—5916
振替貯金口座　名古屋
定価1部20円・1ヵ月

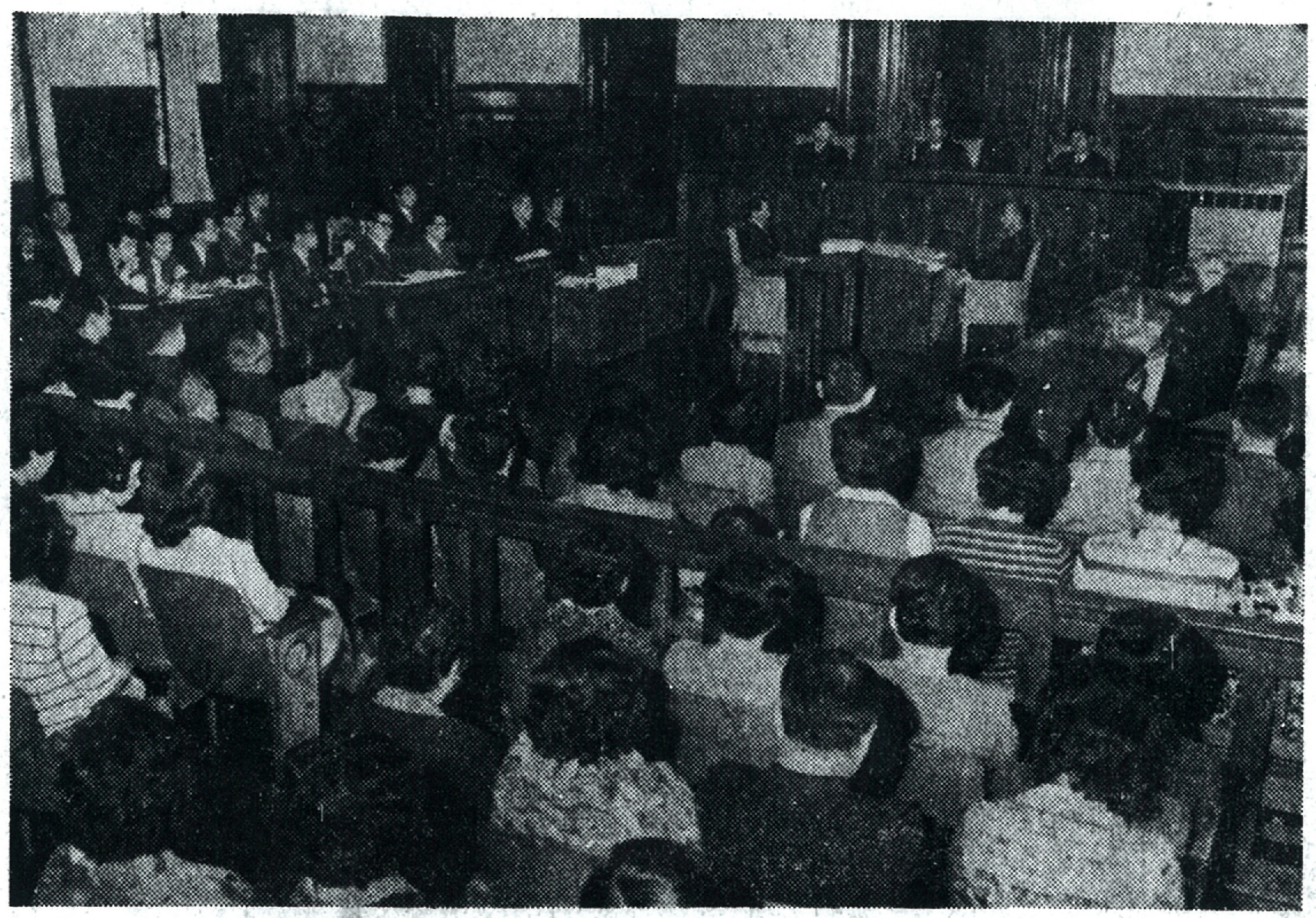
国立国会
47．10．21．
図書館

原告ほぼ全面勝訴

名地裁判決　利川製鋼公害訴訟

ばいじん排出禁止認める

受忍限度超えた　六千七百万円払え



住民の訴え通る　名地裁で開かれた利川製鋼公害訴訟。手前は原告の住民

昭和三十六年十二月から続く工場からの降下ばいじん、騒音、振動で健康、快適な生活環境が侵害されている。これに対する損害賠償をし、今後双方が確認した〝環境汚染値〟を超える「ばいじん」を出すな——と、名古屋市中川区福川町二の一、利川製鋼会社（利川秀吉社長）の周辺住民七十八世帯二百七十七人が同社を相手取った総額約九千四百二十万円の損害賠償と有害ばいじん、騒音の発生禁止を求めた「利川製鋼公害訴訟」に対し、名地裁民事六部、岡村利男裁判長は十九日午前十時からの判決で「被告工場から発生しているばいじんは環境基準値を最高三〇・八倍、平均六・三倍も上回っているほか、他の重金属類も高濃度で含有されているなど騒音、振動とともに受忍限度を超えている。従って被告は過失による不法行為の責任があるから総額約六千七百二十万円の慰謝料を支払え、また請求通り一立方㍍当たり〇・六五㍉㌘（平均二十四時間中一時間平均値）を超えるばいじんの発生を差し止めよ」と、原告のほぼ全面勝訴の判決を言い渡した。これを受け、同社は控訴を断念した。

利川製鋼、控訴せず

判決で同裁判長は、被告は昭和三十四年から製鋼業に転じ、電気炉などの稼動でばいじん、騒音、振動を工場外に出し、このため原告らは平穏で快適かつ健康な生活権を侵害された。また付近には被告と並ぶ公害源はなかった。（侵害行為）

ばいじんは環境基準を数十倍もオーバーしており、騒音、振動も同様で、これらは原告らの受忍限度を超えていた。（違法性）

それにもかかわらず、被告は公害防除手段を十分講じないまま、操業した。（過失による不法行為の責任性）

従って被害の程度、苦痛、居住期間、被告の態度などから最高五十六万二千円、最低二万円の総額計約六千七百二十六万円の慰謝料を支払え。（損害）

また、このような生活利益が侵害された場合、免責的事由のない限り被害者は加害者にそれらの行為の差し止めを請求しうるから、四十四年三月、原告ら付近住民と被告間に「ばいじん」排出制限の協定により大気一立方㍍中〇・六五㍉㌘を超えるときは被告に侵害避止を義務づけると被告の侵害行為、違法性などを厳しく指摘した。

訴えによると、利川製鋼は昭和三十四年四月、紡織業から製鋼業へ転業。電気炉を取り付け生産活動しているが、三十六年二月ごろからばいじん、騒音、振動の被害がひどくなり、呼吸器疾患などの健康障害、睡眠妨害、日常生活の不自由など原告らの生活環境が破壊されている。これは被告の公害防止対策の怠慢が原因だから、三十六年十二月以降の被害程度などに応じた慰謝料一人十—七十万円計約九千四百十万円を支払い、四十四年二月県、市から提示され、原告、被告〝協定〟の「現状の三分の二」、つまり大気一立方㍍当たり〇・六五㍉㌘＝二十四時間中平均の一時間平均値＝を超える「ばいじん」発生を禁止せよ——というもの。

これに対し、被告側は❶「ばい煙の排出量を現状の三分の一以下にする」旨受諾したが、これは確約し、義務づけたのでなく、あくまで改善目標❷ばい煙、騒音発生は認めるが、工場の境界付近居住者を含む原告らの生活への影響はなく、受忍限度内のもの❸被告工場一帯は大正以降、建築基準法中の工業専用指定地なので、同区域内に居住しようとする者、すでに居住していた者は公害発生を予知し、生活不利益の受忍を承認しているはず——などと反論していた。

四十年八月提訴され、五十回の口頭弁論、三回の現場検証を行ない、ことし四月結審した。七年近くの審理とあって、原告数は七十八世帯二百七十七人。訴額もアップされ、計九千四百十万円となった。

利川製鋼は資本金一億八千万円。利川秀吉社長以下従業員二百五十人、敷き地面積約二万二千平方㍍。

昭和二十三年紡織業を創業、三十四年四月製鋼業へ転業、三十五年六月電気炉一基設置を皮切りに現在まで計五基を増設、クズ鉄を電気炉で溶解、鉄塊製品を製造している。

三十六年二月の二基目の電気炉稼動とともに「粉じん」で付近住民から苦情が出たため同年夏コンクリート塀を設置。

三十九年九月名古屋市が「ばい煙規制法」の指定地域とし、取り締まりは愛知県が担当。四十二年六月県、市の公害融資で集じん機（大同製鋼製）一基を設けた。しかし集じん機の騒音が発生し、さらに苦情続出。このため四十五年工場南東側に防音工事を一部実施。四十六年三月現行集じん機の機能が悪いため新型集じん機を購入、電気炉三、四、五号炉に接続した。同年七月、ばい煙の中に鉛カドミウムなどの重金属が多量に含有していることが県会で判明、同年八月改善計画書を市に提出した。内容は❶集じん機完成まで電気炉を常時一基停止❷原材料（鋼クズ）の購入の際、選別検討するとした。住民健康調査の中間発表によると貧血症状は五十四人中十九人、鉛反応は五十四人中三人出た。同年十月三、四、五号電気炉に新型集じん機を設置、十月一日から稼動。ことし五月、新型集じん機の完成まで電気炉一基を操業停止、十月の集じん機完成後、試運転にはいることになっている。

ばいじんに初のワク
規定量超えたら操業停止

《解説》工場から吐き出す「ばい煙」の主流は「イオウ酸化物」「ばいじん」で、四日市ゼンソクなど従来の公害裁判では亜硫酸ガスを中心とした「イオウ酸化物」が問題だった。今回の住民訴訟はこれと異なり、初めて「ばいじん」を対象に〝生活環境汚染、妨害〟の賠償、一定量オーバーの公害発生ストップを一企業に求めたケース。それだけに裁判の最大争点は❶原告の被害が受忍限度を超えるものかどうか。超える場合、被害の程度、工場からの距離などに応じ一人七十万、四十万、三十万、十万円にランク分けした慰謝料をどう認定するか❷現行法規で野放し状態の「ばいじん」の〝環境汚染値〟をどこに定めるか。仮りに定めた場合、これを上回るとき企業に「発生禁止」「不作為請求」つまり事実上の〝操業差し止め〟まで義務づけるかどうか——の二点だった。

判決で裁判所は被告の工場付近に他の公害源がないこと、公害防止対策の不十分さという「違法性」「過失による不法行為の責任性」からばいじん、騒音、振動とも受認限度を超えるとし、原告全員に請求総額の七〇㌫を超える六千七百余万円を認めた。

また、「ばいじん」の〝環境汚染値〟を環境基準値（同〇・一㍉㌘）を根拠に双方の協定通り「一立方㍍中〇・六五㍉㌘」と具体的に定め、これを超える発生禁止の法的規制を企業に加えた。

これは数値こそ大気汚染防止法にもとづき県が定めた「ばい煙」の着地濃度同〇・四㍉㌘、環境庁公示の「ばいじん」の主成分である「浮遊粉じん」の環境基準同〇・一㍉㌘などをかなり上回るものとはいえ、これまでなんら法的規制のなかった「ばいじん」に初めて司法面からワクをはめ、企業に事実上の〝操業差し止め〟を義務づけたもの。現行の企業サイドに立った公害行政に反省を促すと同時に、今後の〝公害絶滅への道〟に一指標を与えたものといえる。

暴力団抗争　警官を巻き添え

仕返しに来て切る

中村の事務所　情報を収集中に

十九日午前十一時半ごろ、名古屋市中村区北浦町三三、暴力団山口組系石倉組事務所へ三人の男がいきなり抜き身の日本刀を持ってなだれ込み事務所にいた名古屋中村署刑事二課、原田宗平巡査長（五四）、同、奥村多実雄巡査部長（四五）に切りつけ原田巡査長は腹部を切られすぐ近くの城西病院へ運ばれたが二週間のけが。原田巡査長らは「中村署員だ」とどなったが、切りつけられたのとほとんど同時で男三人は日本刀三本を捨て事務所前に待たせてあった黒い大型乗用車に乗って西へ逃げた。

原田巡査長

愛知県警捜査四課と中村署員が現場に急行し調べているが十八日の事件でなぐり込みつかまった三人の中に同組員、渡辺鉄太郎（三七）がいたため、その仕返しに来たのではないかとみている。

名古屋市内では昨十八日夜、中区東瓦町八〇、向陽マンション七〇三号、暴力団稲川組安田組幹部安田富雄こと、安富雄組員（三七）が暴力団山口組系弘田組傘下安田組組長、安田喜代勝（三七）ら同組員五人になぐり込みをかけられ、日本刀などでメッタ切りにされ、安組員が一ヵ月の重傷を負った事件が発生している。

十九日朝、なぐり込みをかけられた石倉組は山口組系弘田組傘下で、昨夜稲川組安田組になぐり込んだ山口組系安田組と同系列。

このため、報復など対立抗争が悪化する可能性もあったため原田巡査長は十九日午前十時から昨夜の事件の情報とりと、石倉組員への説得に来ていた最中だった。しかし、私服だったため、いきなりなぐり込んで来た男たちに切られたものらしい。

また、その後の捜査四課の調べでは、東区赤萩町に事務所を構える錦政会の組員が十九日午前七時ごろ、黒い乗用車で、近くのガソリンスタンドに給油にきており、その後、午後零時二十分ごろ、同組員らしい二十四才位の男が同スタンドへ来て「ヤバイことをやってきた」といっていたという。一ヵ月前に安田清勝（十八日逮捕）が中区栄付近で錦政会の若い組員になぐられ、その仕返しに十八日なぐり込んだとみられているところから、同課では錦政会の仕業ではないかとみてその捜査もしている。

私服、組員と勘違い

いきなり三人の男がそれぞれ日本刀のぬき身を振り上げ事務所へなだれ込んだ。所内には前日の事件の情報収集と説得のため私服の原田巡査長と奥村巡査部長が戸口に、中に組員がいた。

組員はとっさに「なぐり込みだーっ」と逃げたが、原田巡査長らはふりむきざま切りつけられたかっこう。しかし、原田巡査長が「中村署員だ」と叫んだため、三人の男は日本刀を投げすて黒い乗用車で逃げた。

現場はところどころ町工場のある静かな住宅街。パトカーがきてはじめて事件を知った住民は、組員や取り調べの係官が出入りする事務所を遠まきにしながら、「きのうブッソーな事件が起きたばかりなのに」「あの続きかしら」などと心配そうに話し合っていた。

暴力団の血の抗争で警官までけが人を出した中村区の山口組系石倉組事務所（×印）

夕閑

十返千鶴子
（評論家）

近所に住む顔見知りの区会議員にたのまれて、仕方なく表の塀にポスターをはった。なんでもその区議の属する党の議員の演説会のためなのだそうだ。家も塀も古びて見るかげもないが、それでも植木屋にやっと頼んで小ざっぱりとして貰ったばかりなので、ポスターやハリ紙などはいっさいご免こうむりたいところであったが、顔見知りのこととてむげにも断わりきれず、厭々ながら引き受けてしまった。

ところが、演説会が終わったら直ちにとりはずしますからという、当初の約束にもかかわらず、その日から半月近くなるというのに、いっこうにとりはずしにくる気配もない。まあ政治家の〝公約〟だからと諦めはしたものの、といってこちらでさっさと取りはずしてしまうのもはばかられて、そのままにしておいた。

そうしてこちらも塀そとのポスターのことなどすっかり忘れていたのだが、この二、三日、なぜかいれかわり立ちかわり政党の若い人たちがやってきて、「お宅の塀にポスターをはらせてもらえないか」と頼みにくる。はて、私の家は角家ではなしとくべつ人通りの多い道路に面しているわけでなし、なんでそんなにポスターをはりたがるのだろうといぶかってみて、アッと気がついた。前に頼まれたポスターをまだ取りはずしてないからである。そしてこの家は、ポスターをはっても構わない家だと目星をつけられてしまったからである。おまけに塀はブロックでなく、板にはったポスターをぶらさげやすい金網ときている。

迷惑ポスター

すでにAなる政党のを許して断わるとなれば、あたかも私がA支持者かと思われるのも迷惑で、いっそのことBもCもどうぞと引き受けてしまった。しかしどれもあまり美的とは思えないポスターが家の周辺の環境を阻害することははなはだしい。今は一日も早く取り去って欲しいと願うのみである。

一日一日

全国の銀行が、ことしの大みそかは休業にするというので話題となっている。すべての収支の結末を年末ぎりぎりの大みそかに持ち込むという生活様式は薄れてきているとはいえ、かなり思い切った措置といえよう▼一般の生活様式は変わってきたといっても、まだまだ取り引きの決済を年末に集中する商習慣は根強いものがあるからである。たまたまことしの大みそかは日曜日に当たっている。だが四十二年に日曜日と年末が重なったときは、もちろん休日は返上であった。この間の時代の変遷というものを、やはり思い知らされる▼最近では年末を休日にする民間企業がふえてきている。しかし、それ以上に全国の銀行をこの挙に踏み切らせたものは、日曜日の休業に足並みがそろわないようでは、週休二日の実現など、おぼつかなくなるだろうという配慮が背景をなしているようだ▼そういえば、政府でもこのほど、週休二日制・定年延長問題関係閣僚懇談会の初会合を開いて、やっと重い腰をあげた感じである。だが、そのあと三池郵政相などは、現業部門でいっきに週休二日にすることは無理だ、と反対の態度を明らかにしていた。どうせ政府のやること、簡単にはいくまい▼そういった折り、外電は出社・帰宅はご自由——という〝フレックスタイム〟と呼ばれる新しい勤務制が欧州で最近爆発的人気を起こしていると伝えてきた。この制度は西ドイツの企業がラッシュアワー回避の時差出勤としてはじめたが、いろいろな利点が認められて欧州全域に広まる勢いだとか▼西独などでは二千社が採用しているが、要するに週三十五時間働けば三日連続休んでもいいという考え方だ。まさにサラリーマンには〝革命〟的なシステムだが、これも週五日制が確立しているからこそ可能だろう。日本の勤労者がこの革命にあずかるのはいつのことか。

新橋駅前（銀座口）
東京港区新橋1—14　☎(571)2111～5
✝十仁整形
眼・耳鼻・歯・皮フ科
十仁病院　名古屋連絡所 (261)1051

くらしに花と緑を
慶弔用籠花・観葉植物・
フラワーポットのご用
㈱美松花
市大病院西北
TEL (852)418
ハコニヨイ
●天白店オープ
ヘラルドボウル1F TEL

永岡書店
好評！
パーフェクトな入門書
初歩のゴルフ教室
柴田敏郎著●定価550円
目で見るゴルフ入門　中村正道著／¥380
つり教室　カラー版／天野敬著／¥380
野球教室　カラー版／中上英雄監修／¥380
サッカー教室　カラー版／仲西駿策著／¥380
東京・練馬区小竹町1の1・振替東京47538

本日発売！　増刷出来！
家庭修理のすべて
なんでも自分でやらなくっちゃ！
日曜大工クラブ代表　松下紀久雄
投稿・文章学入門
新書　あなたの原稿買います
島津一夫著
広済堂出版

推理と官能の傑作
寝室　武田繁太郎　B6判 ¥530
夫婦生活を中心に、男と女の性の充足を追求して、愛とはなにか、女のもつ魔性を探る現代長篇小説
香水心中　横溝正史　¥400
—既刊—
壺中美人　扉の影の女　吸血蛾　不死蝶
470 430 400 400
東京文芸社
東京・新宿・拡方町1　振替東京21757

名タイ読書コーナー
■協力書店（イロハ順）
日進堂書店　瑞穂区桜山南店 (853)1517
星野書店　中区錦3丁目 (961)2526
竹中書店　中区新栄町（東新町角）(261)0501
正文館書店　東区東片端電停角 (931)9321
名タイ読書コーナーは読者の皆様と著名出版社・有名書店とを結ぶコーナーです。本欄掲載出版物は上記書店の特設コーナーに展示してありますぜひともご利用下さい。

東邦出版
不良外人　藤原審爾　¥680
野にさけぶ秋　右遠俊郎　¥680
東京都千代田区神田神保町2—28

好評発売中
ゴ・スーパーブックス㉔
囲碁学入門
名誉本因坊　高川秀格著　定価三八〇円
10月28日発売予定
囲碁ワンポイント指導
十段　坂田栄男
東京都千代田区五番町7の2
日本棋院出版部
振替<東京>68586

聖教文庫
私の人生観
池田大作
聖教新聞社